メキシコ政治情勢（９月）

［概要］

【内政】

●１日、ロペス・オブラドール大統領は、カンペチェ州において第５回大統領教書提出に先立ち政策演説を行った。

●１日、「ロ」大統領は、第５回大統領年次教書を連邦下院に提出した。

●１日、第６５期連邦議会の会期３年目の開会に伴い、連邦議会（上院及び下院）執行部が選出された。

●１日付当地エル･フィナンシエロ紙は､大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。「ロ」大統領の支持率は、５７％（前月比－１ポイント）。

●３日、野党連合は、ソチトル・ガルベス上院議員を、事実上の野党連合大統領候補として選出した。

●５日、連邦上院はバルセナ外相及び外務次官２名の任命を承認した。

●６日、与党連合は、クラウディア･シェインバウム氏（前メキシコ市長）を事実上の与党連合大統領候補として選出した

【外交】

●９日、「ロ」大統領はコロンビアを訪問した。

●１０日、チリ訪問中の「ロ」大統領は、在チリ・メキシコ公邸において、ボリッチ・チリ大統領同席のもと、メキシコへのチリ人亡命５０周年記念式典を主催した。

●１５日、「バ」外相は、キューバで開催されたＧ７７プラス中国首脳会合に出席した。

●１９日付ロサンゼルスタイム紙は、１６日に実施されたメキシコ独立記念日の軍事パレードにロシア軍等が参加した旨報じた。

●２３日、「バ」外相は、第７８回国連総会にて一般討論演説を行った。

【内政】

１　ロペス・オブラドール大統領による教書演説

１日、ロペス・オブラドール大統領は、カンペチェ州において第５回大統領教書提出に先立ち政策演説を行ったところ、ポイントは以下のとおり。

（１）新自由主義の経済政策を改めて批判し、現政権の経済政策による経済成長を強調。

（２）汚職対策、公務員に係る緊縮政策による歳出削減実現、社会給付、「生命の種まき」、及び若年層支援による成果を強調。

（３）司法府に対する批判を行い、今後の司法改革の必要性を訴えた。

（４）フェリペ・アンヘレス空港（ＡＩＦＡ）の開港、マヤ鉄道、及びテワンテペック地峡開発の前進を強調。

（５）石油増産、及び製油所増設等、石油産業の再興の成果を強調。
（６）電力公社（ＣＦＥ）の事業拡張計画の前進を強調し、電力国有化の実現に言及。
（７）現政権下での治安改善を強調。
（８）国防省及び海軍省の、税関管理及び空港警備等、多岐にわたる分野への参画を評価。
（９）遺伝子組換えとうもろこしが健康に与えうる害につき言及したが、ＵＳＭＣＡ等への具体的な言及はなし。

２　第５回大統領年次教書の提出

１日、「ロ」大統領は、第５回大統領年次教書を連邦下院に提出したところ、ポイントは以下のとおり。

（１）政治と政府

現政権は、汚職の撲滅、法の支配の回復、人権の尊重、薬物との闘い、治安対策及び平和構築、並びに参加型民主主義を推進しているとし、綱紀粛正、緊縮策、大統領信任投票等の実施に言及。治安対策については、軍隊が治安対策に従事するための法的枠組の強化、国防省及び海軍省の新たな役割、及び国家警備隊の活動による犯罪件数減少の成果を強調。

外交については、中南米地域でのリーダーシップ及び対北米外交をはじめとした成果を強調。各国との首脳及び外相会談を羅列して言及。

移民問題の根本的解決等の推進、国家捜索委員会を通じた失踪者の捜索、女性及び子供に対する暴力への対策を強調。

（２）社会政策

福祉国家の構築を中心的目標に掲げ、弱者を優先し、包摂性に重きを置いた政策を展開したと記載。住宅、都市インフラ、モビリティ等の開発、自然保護政策等の持続可能な開発の実現等を強調。また、社会事業として、高齢者年金事業、奨学金、「若者たちが未来をつくる」事業、「生命の種まき」事業等に成果として言及。

（３）経済

公的債務の持続可能性を堅持し、政府内の緊縮策の強化、バランスのとれたマクロ経済指標の維持を強調。社会政策への歳出を増加し、労働環境を改善することで、各家庭の所得増加を優先し、それにより所得格差は縮まったと評価。世界経済が停滞するなか、２０２３年第一四半期は、雇用や給与の増加により内需が高まったためプラス成長となった旨強調。脱税監視及び税支払の簡素化等により納税システムを強化したことによる税収増を強調。エネルギー分野については、ＣＦＥの電力市場における地位の再確立、ＰＥＭＥＸの石油増産を成果として強調。地域事業については、マヤ鉄道、テワンテペック地峡開発、フェリペ・アンヘレス（メキシコ市新国際）空港（ＡＩＦＡ）に係る前進を強調。

３　連邦議会執行部の選出

１日、第６５期連邦議会の会期３年目の開会に伴い、連邦議会（上院及び下院）執行部が選出された。上院議長にはアナ・リリア・リベラ氏（ＭＯＲＥＮＡ)、下院議長にはマルセラ・ゲラ・カスティージョ氏（ＰＲＩ）が任命された。

４　大統領支持率等：エル・フィナンシエロ紙世論調査

１日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したところ、概要以下のとおり。「ロ」大統領の支持率は、５７％（前月比－１ポイント)。（８月１１～１２日、１８～１９日、及び２５～２６日に、全国の有権者１、５００名を対象に電話で調査を実施。）

（１)「ロ」大統領の取組を支持するか。

ア　支持する：５７％（前回（７月、以下同じ）５８％）

イ　支持しない：４３％（前回４２％）

（２)「ロ」政権の教科書問題への対応を如何に評価するか。（当館注：公共教育省が発行した義務教育の教科書に誤りがあること及びイデオロギーが反映されていることが指摘されている。）

ア　とても良い、又は良い：３３％

イ　とても悪い、又は悪い：：４１％

ウ　良くも悪くもない：２２％

エ　分からない：４％

（３)「ロ」政権の教育への取組を如何に評価するか。

ア　とても良い、又は良い：４６％

イ　とても悪い、又は悪い：：３２％

（４）各分野における「ロ」政権の取組を如何に評価するか。

ア　経済

（ア）とても良い、又は良い：３６％（前回３７％）

（イ）とても悪い、又は悪い：４４％（前回４８％）

イ　治安対策

（ア）とても良い、又は良い：２５％（前回２４％）

（イ）とても悪い、又は悪い：６１％（前回６３％）

ウ　汚職対策

（ア）とても良い、又は良い：３９％（前回３７％）

（イ）とても悪い、又は悪い：４０％（前回４１％）

エ　社会給付

（ア）とても良い、又は良い：５２％（前回４９％）

（イ）とても悪い、又は悪い：２５％（前回３２％）

５　野党連合の大統領候補選出

３日、野党連合は、ソチトル・ガルベス上院議員を、「メキシコのための拡大戦線」（Frente Amplio por Mexico、ＦＡＭ）全国責任者（注：事実上の野党連合大統領候補）として選出した。野党連合大統領候補選出までの経緯は以下のとおり。

（１）６月２６日、ＦＡＭ全国責任者の選出プロセスが発表され、立候補者の募集が開始された。

（２）８月９日、１５万件以上の有効な署名を集めた４名が候補として選出された。選出された立候補者は、署名数が多い順に、「ガ」上院議員（５５万票)、パレデス下院議員（４５万票)、クリール下院議長（３５万件)、デ・ラ・マドリ元観光相（３４件)。

（３）１４日、「ク」下院議長が選出プロセスに集中するため、下院議長を辞任。

（４）１５日、世論調査で最下位となった「デ」元観光相がプロセスから離脱。

（５）２１日、「ク」元下院議長がプロセスを離脱し、「ガ」上院議員への支持を表明。

（６）３０日、残る「ガ」上院議員及び「パ」上院議員のうち、モレノ制度的革命党（ＰＲＩ）党首が「ガ」上院議員を支持する旨発表。当初は９月３日に発表される予定であった世論調査が、野党連合の各党党首の合意の元、前倒しで発表。その結果、「ガ」上院議員が５７．６％、「パ」上院議員が４２．６％の支持を得た。「パ」上院議員はプロセスから離脱する旨発表し、「ガ」上院議員が事実上の全国責任者（大統領候補）となった。この結果を受け、当初予定の９月３日の最終投票は実施されない旨発表された。

（７）９月３日、野党連合は、モレノＰＲＩ党首、コルテス国民行動党（ＰＡＮ）党首、サンブラノ民主革命党（ＰＲＤ）党首の出席の下、メキシコ市独立記念塔において「ガ」上院議員に対し、全国責任者となったことの証明書を手交した。

６　上院によるバルセナ外相及び外務次官２名の承認

５日、連邦上院議会はバルセナ外相及び外務次官２名の任命を承認したところ、外務省プレスリリース概要以下のとおり。

（１）バルセナ外相は、カリージョ・ラ米カリブ担当次官及びエルナンデス多国間問題・人権担当次官とともに、連邦上院議会の外交委員会において全会一致で承認された後、連邦上院議会本会議で承認され、宣誓を行った。

（２）上院の全ての党の議員が「バ」外相の経歴、経験、感性、及び能力を強調し、外務省を率いるのに適した人物であると評価した。

（３）「バ」外相は、「全会一致で承認されたことは大変光栄。我々はメキシコの一部を代表するのではなく、メキシコのすべての声を代表する。」と述べた。

（４）「バ」外相は、今後１２か月間の「バ」外相の作業計画は以下の軸に基づく旨述べた。

ア　身近で包摂的で国民に奉仕する外交

イ　一貫した外交
ウ　力強い外交
エ　メキシコを変革する事業にコミットした外交

７　与党連合の大統領候補選出
（１）６日、与党連合はクラウディア･シェインバウム氏（前メキシコ市長）を変革擁護委員長（当館注：事実上の与党連合大統領候補）として選出した。国家再生運動（ＭＯＲＥＮＡ）プレスリリースによれば、デルガドＭＯＲＥＮＡ党首は、平和的、民主的、及び人々に開かれたプロセスが行われたと述べ、新たな指導者が選ばれた今、団結することが全ての者の責任である旨強調した。
（２）世論調査委員会及び世論調査会社４社の結果は以下のとおり。
ア　世論調査委員会
（ア）シェインバウム氏：３９．４％
（イ）エブラル氏：２５．６％
（ウ）フェルナンデス・ノローニャ氏：１２．２％
（エ）ロペス氏：１０％
（オ）モンレアル氏：６．５％
（カ）ベラスコ氏：６．３％
イ　マルカエイ社
（ア）シェインバウム氏：３９．３％
（イ）エブラル氏：２５．９％
（エ）ロペス氏：１１．７％
（ウ）フェルナンデス・ノローニャ氏：１０％
（オ）ベラスコ氏：７．３％
（カ）モンレアル氏：５．８％
ウ　デ・ラス・エラス社
（ア）シェインバウム氏：４１．１％
（イ）エブラル氏：２６．４％
（ウ）ロペス氏：１０．９％
（エ）フェルナンデス・ノローニャ氏：９．３％
（オ）ベラスコ氏：６．９％
（カ）モンレアル氏：５．４％
エ　ブエンディア・イ・マルケス社
（ア）シェインバウム氏：３６．６％
（イ）エブラル氏：２６．１％
（ウ）ロペス氏：１１．１％

（エ）フェルナンデス・ノローニャ氏：１１．７％
（オ）ベラスコ氏：８．６％
（カ）モンレアル氏：５．９％
オ　エリガ社
（ア）シェインバウム氏：４０．５％
（イ）エブラル氏：２５％
（ウ）ロペス氏：１２．２％
（エ）フェルナンデス・ノローニャ氏：９．９％
（オ）ベラスコ氏：６．７％
（カ）モンレアル氏：５．７％
（３）同日、エブラル氏（前外相）は、世論調査結果集計において、投票箱のうち１４．４％が無効とされるなど、問題が発生したとして、世論調査を再度行うよう主張し、大統領候補発表式典に出席しなかった。同日、「エ」氏は、１１日に何らかの決断を行うと述べた。１１日、「エ」氏は、記者会見を行い、以下のとおり述べた。
ア　先般行われたMORENAの大統領候補選出のための世論調査において不正があったため、党の誠実性及び正義委員会に対し異議申し立てを行った。
イ　すぐにはMORENAから離党はしないが、今後「Movimiento Progresista」という名の政治運動を設立し、９月１８日に活動を開始する。その後、１０月中旬まで国内各地をまわり、支援者への説明を行う。既に１００万人の支持者がいる。
ウ　今後、状況が変わらない場合は、MORENAにとどまらない可能性がある。

【外交】
１　ロペス・オブラドール大統領のコロンビア訪問
９日、「ロ」大統領はコロンビアを訪問した。コロンビア・カリ市で開催された薬物にかかるラ米・カリブ会議の閉会式において、メキシコ及びコロンビア両政府は、薬物の密輸及び使用と闘うことで合意した。訪問に同行中のバルセナ外相は、薬物の密輸及び使用と闘うための行動実施のロードマップである最終文書策定に向けた努力及び貢献について、コロンビア政府、参加国、市民社会組織及び国連に対し謝意を表した。

２　ロペス・オブラドール大統領のチリ訪問
１０日、チリ訪問中の「ロ」大統領は、在チリ・メキシコ公邸において、ボリッチ・チリ大統領同席のもと、メキシコへのチリ人亡命５０周年記念式典を主催した。チリにおけるクーデター５０周年記念の文脈において、イサベル・アジェンデ上院議員は、代理として、アジェンデ元大統領へのアギラ・アステカ死亡叙勲を受け取った。「ボ」大統領は、メキシコ政府及び国民に謝意を表し、「ア」元大統領への叙勲による敬意の表明は、非常に意義があることを強調した。

３　バルセナ外相のＧ７７プラス中国首脳会合出席

１５日、「バ」外相は、キューバで開催されたＧ７７プラス中国首脳会合に出席したところ、同日付及び１９日付外務省プレスリリースの概要以下のとおり。

（１）５日付プレスリリース

ア　「バ」外相は、キューバを訪問し、Ｇ７７プラス中国首脳会合に出席した。

イ　「バ」外相は、ロペス・オブラドール大統領の代理としてメキシコとキューバの友好関係、及び国連加盟国の３分の２の国が集結し、世界人口の８０％を占める多国間強調のメカニズムとしてのＧ７７プラス中国の重要性を確認した。

ウ　「バ」外相は、Ｇ７７プラス中国による、貧困との闘い、南南協力、気候変動、技術革新、及び持続可能な開発目標への取組並びに開発資金に係る提案を強調した。

エ　「バ」外相は、メキシコは、Ｇ７７プラス中国に復帰することを検討していると述べ、より良い、平等で、公平で、且つ持続可能な世界を構築するためには、重要事項における南南協力について声を一つにすることが不可欠であると述べた。

（２）１９日付プレスリリース

「バ」外相は、キューバ政府に対し、Ｇ７７プラス中国が一致して複雑な世界情勢における交渉の立場の強化を目指して行動するために、メキシコが貢献できる分野を見つけるべく、検討すると伝達した。メキシコ外交は、その歴史を通じて、合意の形成及び同盟の促進への意思により特徴づけられる。メキシコは、国際場裏におけるその位置を認識しており、どの国も排除しない開発を求め、南の人々に発言権を与えることに引き続き貢献したいと考える。

４　独立記念日軍事パレードへのロシア等参加

１９日付ロサンゼルスタイム紙は、１６日に実施されたメキシコ独立記念日の軍事パレードにロシア軍等が参加した旨報じたところ概要以下のとおり。

（１）独立記念日の軍事パレードには、中国、コロンビア、キューバ、エクアドル、エルサルバドル、ニカラグア、ベネズエラ、チリ、パナマ、ロシア、ブラジル、韓国などの代表が参加した。「ロ」大統領は、１８日、メキシコ独立記念パレードへのロシア軍兵士の参加を擁護し、「中国もパレードに出ていたがあまりスキャンダルとならず驚いた。全てロシアについてだった。」、「我々は世界のすべての国々と関係があり、皆が招待されている。」と述べた。

（２）ドラマレツカ（Oksana Dramaretska）駐メキシコ・ウクライナ大使は、この記念行事はロシア軍によって「汚された」と述べた。また、「ロペス・オブラドール大統領、あなたの中立政策と我が国に対するロシアの侵略への非難は、整合性があるのか」とＸに投稿した。

５　バルセナ外相による国連総会一般討論演説

２３日、「バ」外相は、第７８回国連総会にて一般討論演説を行ったところ、墨外務省プレスリリースに基づく右概要以下のとおり。

（１）現在、国連は、人類を戦争の惨禍から守り、人権を保護し、国際法の有効性を確保し、環境の持続可能性を確保しつつ、人々の幸福を促進するという大きな課題に直面している。

（２）５０以上の武力紛争と核拡散、人道から気候問題まで多様な危機の深刻化、余儀なくされた移住、格差・貧困の拡大など、我々は国際社会の平和と安全に対する脅威に直面している。決議が、人々、地球及び繁栄のための具体的な利益に結びつかなければ、国際的行動は正当性を失う。「2030アジェンダ」に向けた緊急的な行動が必要である。

（３）

ア　メキシコは、環境の持続可能性及びグリーン＆ブルー産業政策への移行の重要性を再確認する。

イ　気候変動は、史上最大の市場の失敗であり、最大のグローバル・リスクの一つである。我々は、特にカリブ地域を支援するため、気候変動対策のための資金の重要性を強調する。

（４）メキシコは、グローバル・サウスの交渉上の立場の強化に貢献するため、Ｇ７７プラス中国グループの議論に参加することを検討している。近いうちにＧ７７プラス中国グループに提案を提出する。

（５）メキシコは、コロンビア政府と民族解放軍との間の対話に保証国として参加し、ベネズエラの政治対話のために解決策を模索している。

（６）ウクライナとロシアの紛争に関し、我々の立場は明白であり、ロシアによるウクライナ侵攻は国連憲章及び国際法への違反であり、非難する。全ての国家はその領土の一体性を回復するために全ての手段を有する権利があるが、軍事的競争は平和的解決を遠ざけている。

（７）メキシコは、トラテロルコ条約や核兵器禁止条約のもと、軍縮と核不拡散を支持する。銃器の不正取引が増加していることを大きく懸念している。メキシコは麻薬の不正取引と闘うための公約を誠実に履行しているが、密売された武器の製造国や原産国が責任を負わなければ、あらゆる努力も限定的なものになる。

（８）

ア　ハイチについては、国際社会が安定回復を支援するために行動することを願う。

イ　メキシコは、イスラエルとパレスチナが、パレスチナの人々の犠牲なく平和に共存することにコミットする。

ウ　キューバが苦しむ継続的な経済封鎖のような異常な状況にも終止符を打つべきである。

（９）メキシコは地理的に避けられない移民という課題に直面している。移住は義務でな

く選択となるべきであり、安全で秩序ある方法で行われるべきである。緊急に移住現象の構造的原因に対処すべきである。移民の出身国の包括的開発を支援することが重要である。

（１０）メキシコは、ジェンダー平等を進めていく。

（１１）我々は、人々に寄り添い時宜を得た効果的な多国間主義を目指し、グローバル公共財の提供にコミットする。政治的コミットメントは、経済的・社会的な力関係の再構築を可能にする新たな多国間主義を進めるために重要であり、開発は経済新自由主義よりも優先されなければならない。